



Air Line Pilots'
Association of JAPAN

ALPA Japan NEWS

日 乗 連 ニ ュ ー ス

Date 2021. 5.14 No. 44 - 21

発行 : Air Line Pilots' Association of Japan

日本乗員組合連絡会議

HUPER 委員会

〒144-0043

東京都大田区羽田 5-11-4

alpajapan.org

IFALPA Safety Bulletin 「新型コロナワクチン」

新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種が世界各国で進んでいますが、IFALPA より今般、ワクチン接種に係る Safety Bulletin が発行されました（英語の原文は[こちら](#)）。



SAFETY BULLETIN

21SAB09

27 April 2021

新型コロナワクチン

概要

新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種が世界各国で進んでおり、運航乗務員・客室乗務員のワクチン接種も進んでいます。ワクチン接種は強く推奨されていますが、あくまでも本人の任意接種となっています。コロナ感染のリスクは、ワクチン接種による副反応のリスクに比べて遥かに高いとされています。従って、保健当局と／又は航空当局がワクチンを承認し、それが提供されたタイミングで、パイロットはワクチンを接種することが望ましいでしょう。

新型コロナワクチンに関する事前情報

ウイルスに作用するワクチンには主として3つの接種方法があり、ワクチン接種によって体内で免疫反応が起こります。

1. 弱毒化したウイルスそのものを使用する方法
2. 不活化したウイルス（またはその一部）を使用する方法
3. ウイルスの遺伝情報を使用し、体内で「スパイクタンパク質」を産生させる方法

上記全ての方法が新型コロナワクチンとして使用され、新型コロナウイルスに対して免疫を獲得します。現在、ほとんどの承認済みワクチンは、2回の接種を必要としています。

各ワクチンに関する詳細は、WHO（世界保健機関）の[サイト](#)をご参照ください。

新型コロナワクチン接種は必須なのか？

いいえ、ワクチンの接種は必須ではありません。一方で、個人に対する感染防止や集団免疫、また感染拡大を遅らせる効果などを考慮すると、接種そのものは強く推奨されています。ICAOは、「ワクチン接種は海外渡航に必須なものではない」という見解を示しています。ワクチン接種の必要性に関して、解決しなければならない課題があります。例えば、「航空会社は乗務員に対してワクチン接種を指示できるのか?」、「各国は入国に当たり、ワクチン接種を必須とするのか?」、「国が承認したワクチンは、他国でも承認されるものなのか?」といった課題です。各国 ALPA は、こうした全分野における課題に対する取り組みを、注意深く見守っていく必要があります。



新型コロナウイルス感染後のワクチン接種について

新型コロナウイルスに感染した場合の免疫獲得については、予測することが不可能です。自然免疫力が強靱で、長期間持続する人もいれば、全く免疫が獲得出来ない人もいるでしょう。新型コロナワクチンは、抗体とT細胞（細胞性免疫）の両方を生成しますが、多くの場合、感染によって獲得する免疫よりも、強靱で長期間の免疫が得られるとされています。さらに、新型コロナウイルスの変異株は、感染によって得た自然免疫では認識されない一方、ワクチン接種による免疫獲得では認識されることが分かっています。そのため、すでに感染したパイロットもワクチン接種が推奨されます。

ワクチンの違いによって、有効率に差は出ますか？

承認された全てのワクチンは、新型コロナウイルス感染症の重症化を防ぐ効果があります。そのため、ある特定のワクチンのみを推奨するということは現実的ではありません。各ワクチンの有効率は、研究対象となった人数や有病率を含む多くの変数によって変化すること、またウイルスの型によっても異なります。

当局から承認されるワクチンであれば、接種することをお勧めします。ワクチンが承認されているかどうか不明な場合、航空身体検査医に相談してください。また、ワクチンの種類を選択することができる場合、医学的な専門家のアドバイスを求め、その情報に基づき決定することをお勧めします。

ワクチンの有効性に関する更なるデータは、近日中に公開される予定です。今後の考え得るシナリオの一つとして、新型コロナウイルスがインフルエンザウイルスと同様、類似する型に変えながら、地球上に存在し続けることです。その場合、新たな変異株に適応したワクチン接種を、毎年実施する必要があることが考えられます。

副反応について

全てのワクチンにおいて、副反応が出る可能性があります。通常、副反応は新型コロナウイルスに感染する場合、またその合併症に比べて軽度で、重症度も遥かに低くなります。副反応は、通常であれば数日で消えます。一般的な新型コロナワクチンの副反応として、接種部位の圧痛や腫れ／発赤、頭痛、筋肉痛、倦怠感、37.8度以上の発熱が挙げられます。強い副反応が現れた場合、副反応が長期に渡って継続する場合、また上記以外の副反応が出現した場合は、医療機関に相談してください。

ワクチン接種後の安静期間について

ワクチン接種後から航空業務に従事するまでの間、推奨される安静期間は決まっていません。そこでIFALPAは、各国当局の推奨に従うように推奨しています。一例として、FAAとEASAでは48時間のインターバルを確保するように推奨しています。いかなる場合においても、副反応が出現している間は、航空業務に従事してはなりません。

運航乗務員の優先接種について

IFALPAとITF（International Transport Federation＝国際運輸労連）は、医療従事者及び重症化リスクの高い人へのワクチン接種が完了した後、航空従事者へのワクチン接種の優先権を求める[共同声明](#)を発表しました。また2021年3月に、ICAO、ILO、IMO、IOM、WHO*も同様の共同声明を発表しています。

※ ILO：International Labor Organization＝国際労働機関、IMO：International Maritime Organization＝国際海事機関、IOM：International Organization for Migration＝国際移住機関、WHO：World Health Organization＝国際保健機関

以上

